生活科学研究所の進展の概要

事務長　山　口　　功

東京家政大学の開学に当り，その附属施設として生活学科研究所と被服科学研究所が開設され，それぞれの分野で各研究室中心に教員の研究活動をささえることとなった。その当時は教員が研究所の研究員ということになっていた。昭和47年からは生活科学研究所に一本化され，同年8月に研究所専攻生として石久保鈴子が2年間米国サウスカロライナ州ウインスロップ大学へ衣料学を研究テーマとして留学し，同大学からジェーン・シャーリが派遣されてきたが，彼女は本学での研修を半ばにして帰国する事情をもッていた。また昭和48年4月には研究所専攻生として李美雲が本学卒業後入所し，五ケ月間仙草成分の研究（指導：草間）を行い一身上の都合でその後退所した。ついで昭和48年9月にジェーン・スチーブンスが，日本語，日本学，家政学一般についての研修生として派遣されて来た。昭和49年9月には研究所研修生畑山富子が2年間同大学で食品学を中心に研究を行い，その間，ローラ・フォードが派遣されて来た。この国際交流はウインスロップ大学の交流予算削減のため，その後は止むなく打切りとなった。昭和48年4月から1年間新しい構想のもとに山下所長(当時)以下が，ついで津郷所長(当時)以下が生活科学研究所の運営にあたったが，この時の研究所はウインスロップ大学と本学との学生国際交流計画に基づいて財団法人日本国際教育協会の学生国際交流制度の受皿として機能していた。なお，この計画は有光学長当時に，三木学監(当時)を委員長とする国際交流委員会において，検討し準備されていたものである。

研究所研修生の本格的な受入れについては，まず昭和50年4月に東京家政大学生活科学研究所研修生規程を整備し，これまでの東京家政大学生活科学研究所規則と相まって，研修生指導体制を整え，翌年の昭和51年4月から津郷所長のもとで研修生を順次受入れた。現在は仲所長のもとで研究所の一層の発展を期している。

1）昭和51年4月からの研修テーマと就職先

入所年度	修了年度	氏　　名	研修テーマ（指導教員）	就　職　先
51	52	神崎　ひろ子	NH_3-PO_5-H_2O 系溶解度（秋山）	本学教務部学務課
	52	長塚　こずえ	布の素材と造形（藤本）	本学服飾美術科実験助手
		松重　　明子	乳幼児の人間関係—交遊関係を中心として—（宮崎）	結婚のため退所
52	53	山口　　葉子	高分子フィルムによる漂白効果の検討（片山）	繊維工業試験所（行田）
53	54	草間　みち子	女子衣服変遷にみる袖の形態について（藤本）	敬愛高校数学教諭（千葉）
	54	山崎　智恵子	乳幼児の栄養に関する統計学的研究（宇留野）	
54	55	松村　　和子	リン酸アンモニウムの加熱変化（秋山）	エーテーコーポレーション（貿易会社）
		渡辺　美智子	食品に含まれるポリフェノールと含窒素有機化合物から生成する有色物質について（草間）	他大学院受験準備のため退所
55	56	押井　　由子	窯芸，作陶及び釉薬の研究（宇野・高橋）	
	56	中里　　純江	窯芸，作陶及び釉薬の研究（宇野・高橋）	

56		居駒　美奈子	手織りによる服地について（水町）	国本学院高校講師就職のため退所
		清水　由未子	手織りによる布地について（水町）	
		下山　　圭子	作陶及び練り込み技法と色素地についての研究（宇野・高橋）	
		鈴木　　容子	平面構成における体型・年令に適した寸法と着装効果（高月）	

2）研修生の作品展開催

S 55. 12. 15～20	はまのや画廊（銀座）	二陶展	押井　由子・中里　純江
S 56. 12.　8～13	いすず画廊（銀座）	〃	〃　　〃
S 56. 10.　5～10	中島ギャラリー（銀座）	Ceramic& Weaving 三人展	下山　圭子

運営委員会委員の変遷

期　　間	運営委員会委員
昭和48年4月― 昭和49年3月	所　長：山下　俊郎 部　長：山下　俊郎，　平田　政雄，　高橋　剛 所　員：大瀧　ミドリ（兼任） 事務長：木村　正己
昭和49年4月― 昭和51年3月	所　長：津郷　友吉 部　長：堀内　康人，　草間　正夫，　高橋　剛 所　員：大瀧　ミドリ（兼任，昭和50年4月から専任），　藤本　やす（兼任） 白鳥　つや子（兼任） 事務長：木村　正己
昭和51年4月― 昭和53年3月	所　長：津郷　友吉 部　長：堀内　康人，　津郷　友吉，　高橋　剛 所　員：大瀧　ミドリ（専任），　藤本　やす（兼任），　白鳥　つや子（兼任） 事務長：木村　正己（昭和52年3月退任），秋山　堯（昭和52年4月就任） 書　記：藤間　寿子
昭和53年4月― 昭和55年3月	所　長：津郷　友吉 部　長：堀内　康人，　津郷　友吉，　高橋　剛 所　員：宇高　京子（専任），　藤本　やす（兼任），　宮崎　照子（兼任） 事務長：秋山　堯（昭和54年3月退任），　山口　功（昭和54年4月就任） 書記補：木村　千鶴
昭和55年4月― 昭和57年3月	所　長：津郷　友吉（昭和56年3月退任），　仲　三郎（昭和56年4月就任） 部　長：山内　昭道，　草間　正夫，　仲　三郎 所　員：宇高　京子（専任，昭和56年4月から1ケ年米国留学） 藤本　やす（兼任），　宮崎　照子（兼任） 白鳥　つや子（兼任，昭和56年度のみ） 事務長：山口　功 書記補：木村　千鶴（昭和56年3月退任），　鈴鹿　安紀子（昭和56年4月就任）